



BLUECROSS MOVEMENT

Information magazine (No.2)

発行元: BLUECROSS運動実行委員会

6月16日(土曜日)13:20~16:30、北九州市毎日ビルディング西部本社にて、BLUECROSS MOVEMENT研修会を実施しました。周知広報が不十分でしたが教員、弁護士、保護司、協力雇用主、大学生等、69名の方々に参加いただきました。



「指導ではなく支援」「居場所」「地域のカ」「レジリエンス」「ネットワーク」などのキーワードがアンケートにありました。ありがとうございました。

実践発表



「A小学校における協働教育連絡協議会の取組」と題して田川市教育委員会課長補佐 石井雄二氏とA小学校に携わった工藤に実践発表をしていただきました。

石井氏には厳しい状況の中で地域に学校を開き、地域の方の力を学校に取り入れ、役割を確かめながら課題に真摯に向き合った実践をわかりやすく、工藤にはリアルな状況と地域からの思いや学校に期待することを発表していただきました。

学校の問題をオープンなものとし、各地域の機関と協力したものであり、問題があることを取り上げていく姿勢そのものが、行動している児童生徒に伝わっていくことの基盤となると感じながら聴いた。

BLUECROSS MOVEMENT 研修会

基調講演



「学校・地域社会における青少年の健全育成の在り方について～少年院の立場からの提言～」と題して四国少年院長 服部達也 氏に、熱のこもった講演をしていただきました。

少年非行の背景、非行少年だけを対象にするのではなく家庭を救うシステム構築の必要性、少年の健全育成のためには自己肯定感や有用感を醸成することが必要であるとお話でした。お話の中で、困難な環境に立ち向かえる子どものマインド(レジリエンス)の育成には、安定した愛着関係や自尊心が大切であるという話はとても印象に残りました。

一人ひとりの力は小さくても、同じ思いを持った人たちが手を取り合い、支え合いながら非行少年たちの立ち直りを支援していく、ブルークロスムーブメントの意義が確かめられる講演でした。

協議(事例検討)

「問題行動への対応と関係機関と連携した取組」



事例検討では、非行少年たちの置かれている状況の中で、それぞれの立場から何ができるのかを会場の皆さん方に熱心に協議していただきました。日頃あまり交流のない多種多様な方々との協議は大変貴重で、共通の事例をもとそれぞれの立場から専門的な話を聞くことができ、貴重な時間となりました。協議の最後に、司会者から感想を求められた大学生は「興味があり参加したが、勉強になりました。自分にできることをしていきたい」と述べ、会場からは大きな拍手が起こりました。

様々な職種の方々がいて、たくさんの意見を聞いて、社会の現状を知れてとてもいい経験ができました。口だけではなく、行動にし、手助けしたいと感じました。

己を省みて、己の夢を持ち、己を超える